

## 沿岸各地の水温

(2月16～20日)

日本海 7℃台  
陸奥湾 4～7℃台

津軽海峡 5～9℃台  
太平洋 6～7℃台

今回は東湾ブイで昇温し、その他地域では降温しました。平均前回差は-0.9度となっています。

昨年と比べると、日本海側で+0.2度、津軽海峡側で+0.5度、太平洋側で+1.3度、陸奥湾内で+2.1度となっており、平均昨年差は+1.3度でした。

平年と比べると、日本海でかなり高め、陸奥湾でやや高め、津軽海峡、太平洋では平年並みとなっています。平均平年差は+0.6度と日本海では高め傾向が続いています。

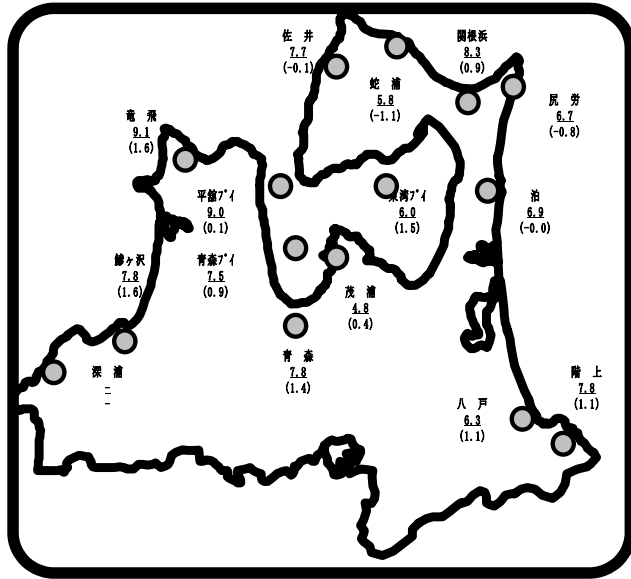


図 定地水温 (2月16～20日)  
平均値 (平年差) ブイ 1m

	水温	平年差	昨年差	前回差
深浦	-	-	-	-
鯨ヶ沢	7.8	+1.6	+0.2	-1.2
竜飛	9.1	+1.6	-0.4	-0.6
佐井	7.7	-0.1	+1.4	-0.9
青森	7.8	+1.4	+2.9	-1.1
蛇浦	5.8	-1.1	-0.5	-1.2
関根浜	8.3	+0.9	+1.5	-1.1
尻屋崎	6.7	-0.8	-0.4	-1.2
泊	6.9	-0.0	+0.0	-1.9
八戸	6.3	+1.1	+3.2	-0.2
階上	7.8	+1.1	+2.2	-0.8
茂浦	4.8	+0.4	+1.1	-1.4
平舘ブイ	9.0	+0.1	+0.6	-0.7
青森ブイ	7.5	+0.9	+2.7	-0.9
東湾ブイ	6.0	+1.5	+3.0	+0.1
平均	7.2	+0.6	+1.3	-0.9

## 太平洋の海況 (2月19～22日)

概況；沿岸水温は7℃台

### ○太平洋沿岸域の表面水温

前回から2～3℃降温し、前年同期と比べると1～2度高い水温となっています。

### ○津軽暖流の尻屋崎東方への張り出し

7℃等温線でみると東経141度40分付近までと、張り出しは前回より弱くなっています。

### ○親潮系冷水の南下

6℃等温線でみると北緯36度分55付近までと、南下は前回より強くなっています。

## 日本海の海況 (2月19～22日)

概況；沿岸水温は8～9℃台

### ○日本海沿岸域の表面水温

前回から1～2度降温し、前年同期と比べると1度ほど低い水温となっています。

## ◎2008年におけるクロマグロ漁況の特徴「日本周辺国際魚類資源調査結果」

2008年の漁獲量は、調査対象7地区(右図：地区別漁獲量)全体で766トン(前年794トン)と調査を開始した1992年以降2番目に多い漁獲量となっています。海域別では日本海で283トンと前年(332トン)の約85%、津軽海峡で359トンと前年(427トン)の約84%であったのに対し、太平洋では124トンと前年(前年35トン)の約2.5倍の漁獲がありました。

定置網の漁獲ピークは、日本海側で6月と9月(例年は7月ごろ)、太平洋側で5、7月と11、12月(例年は5月ごろ)にあり、例年と比べピークが2つに分かれるという特徴がありました。釣りや延縄漁業は、9～11月にピークがあり、これはほぼ例年通りの傾向です。

平均体重は津軽海峡の釣りでは、大間123.1kg(前年143.0kg)、三厩67.7kg(前年62.0kg)でした。日本海側の定置網では深浦10.5kg(前年14.4kg)、岩崎10.1kg(前年13.3kg)で、昨年より小型でした。

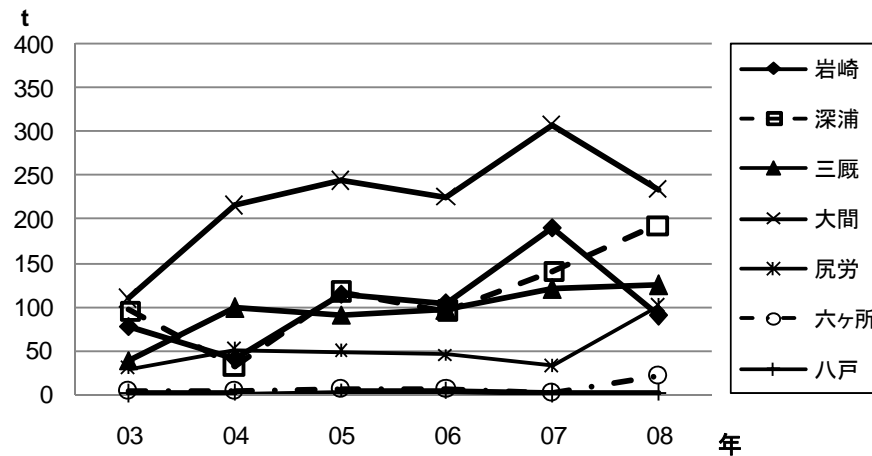
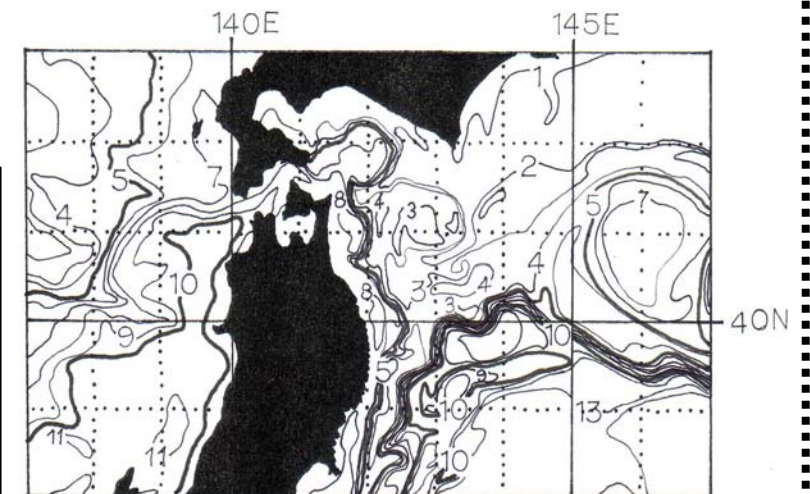


図 各地のクロマグロ類漁獲量経年変化



資料：(社) 漁業情報サービスセンター  
北部太平洋海況情報 第92号 2月23日

## ◎新規ブイによる水温データの配信 (東北区水産研究所；URL <http://tohokubuoy.net.myg.affrc.go.jp/Vdata/>)

平成20年度事業「地球温暖化による沿岸漁場環境への影響評価・適応策検討調査委託事業」により、本県尻屋崎地先に水温自動観測ブイを平成21年2月9日に新設しました。今後、1・5・10mの3層の水温データを「ウオダス」でも配信していきます。

### ●尻屋崎地先の水温

	水深1m	水深5m	水深10m
2月16～20日	8.05	8.12	8.12
前回差	-0.31	-0.31	-0.31